

第1学年 生活科学学習指導案

指導者 相 恵理子

1. 単元名 なかよしたんけんたい

2. 単元について

(1) 学習指導要領から

本単元では、学習指導要領 (1) (3) の内容を受けその中でも特に、

(1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子や、その安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。

という内容と深くかかわっている。

この内容では、子どもが学校の施設を利用したり、先生や友達、学校生活を支えている人々とのかかわりを深めたりしながら、学校生活を豊かに広げ、楽しく安心して遊びや生活ができるようにすること。通学路の様子やその安全を守っている人々に関心をもち、安全な登下校ができるようにすることを目指している。

本校の子どもたちはたくさんの幼稚園・保育所から入学してきたため、学習経験や生活経験の違いが感じられる。入学当初は不安や緊張、戸惑う場面が見られたが、2ヶ月が経ち、給食や掃除、係活動などに取り組み始め、徐々に学校生活に順応している様子である。そして、学級の友だちやお世話をしてくれる上級生の名前を覚え、業間休みや昼休みに一緒に外で遊ぶことを楽しみにしている。

本単元では、探検を通してそこで見たり聞いたりしたこと、実際に利用したりすることで、学校のいろいろな施設やそこに従事する様々な人々やとのかかわりを深め、楽しく安心して遊びや生活ができるようにしていきたい。また、学校との距離を縮めていきたい。学習を進める中で、さらに探検の活動範囲を校庭や学校の周りの公共施設にも広げていく。これらの活動で友だちや先生、学校を支えている職員との関わりを深めたりしながら、学校の施設や人が大好きとなり、楽しく安心した学校生活を送れるためのよいスタートとなってほしい。さらに、「ここは自分の学校である」という所属感が芽生えていけるような気持ちや態度を育てていきたい。「学校が大好き」「生活科の勉強って楽しい」という意識を持ち、生活科のみならず学校生活にも意欲をもつなど、よい影響を及ぼすことができるのではないかと考える。

交通安全に関しては、登下校の様子を見ると信号や車の往来などの基本的なことに注意を払っている様子であった。ただし、道路を歩いていて危険な目に遭ったことがある子どももおり、通学路の探検に行く過程で交通ルールを守る重要性を今一度確認しながら学習するようにしたい。

(2) 単元の目標

- 友だちや先生、学校を支える人々と親しみ、楽しく学校生活を送ることができる。
- 学校の施設を知り、利用の仕方が分かり、楽しく安心して遊びや生活ができる。
- 通学路の様子や安全を守っている施設や人々に気付き、安全な登下校ができるようになる。

(3) 単元の評価基準

- 学校の施設、学校生活を支えている人々や友だちおよび、その通学路の様子や安全を守っている人々などに関心をもち、楽しく学校生活を送るとともに、安全な登下校をしようとしている。
(生活への関心・意欲・態度)
- 学校の施設の利用および、学校の生活を支えている人々や友達とのかかわり、安全な登下校などについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現したりしている。
(活動や体験についての思考・表現)

○学校の施設、学校生活を支えている人々や友だちおよび通学路の様子などが分かり、それらと自分
とのかわりに気付いている。(気づき)

3. 部会研究課題とのかかわり

研究課題② 子どものこだわりやよさを見つけ、やる気を引き出す支援のあり方

1年生にとって小学校の校舎や校庭は不思議いっばいな空間であろう。しかし、特別教室や一階教室は1年生にとってかわりが少ない。施錠をしてある部屋も多くあり、2年生と学校巡りをしたとはいえ、その教室の使い方やそこに保管されているものまでは分からなかったのが現状である。

そこで、本単元ではお気に入りを見つけるというめあてをもち、学校の施設や人々に繰り返し関わることを通して、学校での生活を豊かに広げていくことができるようにしたい。そのために、学校の施設をじっくりと探検する機会を多く取るようにする。そして、探検した場所ごとにお気に入りを一つ決め、カードにかき、紹介していく。学校探検を通して、学校の施設を知り、利用の仕方が分かるとともに、学校にはお気に入りのものが隠れているという親しみを持ってもらいたい。そして、学校のことを詳しく知ること、自分への自信につなげ、さらに冒険心、探求心が高められ、次への探検へと積極的に活動していけるようにしたい。

研究課題④ 他教科、総合的な学習の時間等との関連

生活科の学習は、教科の性格上、国語科、音楽科、図画工作科など、他教科との関連が深い。学習指導要領の第1章総則の第4の1の(4)でも「児童の実態等を考慮し、指導の効果を高めるため、合科的、関連的な指導を進めること」と示されている。また、学習指導要領の第1の2においては、「学校における道徳教育は、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通して行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して適切な指導を行わなければならない」と規定されており、道徳の時間などの関連を考慮しながら、生活科の特質に応じて適切な指導をすることと示されている。

本単元では、主に国語との合科的な関連を重視した。国語の「はなしましよきましましよ」の単元では、事柄の順序を考えて話し、聞き手の方を見ながら興味を持って聞くことを、「えとことばでかきましましよ」では、絵に合う言葉や文をひらがなで書くことをそれぞれねらいとしている。そこで、生活科の探検をして、楽しかったことやお気に入りを発見したことを話したり、友だちの話を聞いたりする活動を関連させる。そして、探検で見つけたお気に入りを絵や文で表し、「はなしかためいじん」「ききかためいじん」の表を活用し、それをもとに話すようにしたい。また、図書室の使い方については「としよしつをつかいかたをおぼえよう」でも探検と合わせて行いたい。

他教科では、図工の「すきなものいっばい」で好きなものや好きなことを自由に描く活動を、いろいろな探検をして楽しかったことやお気に入りを自由に絵や粘土に表すようにする。探検するときのマナーやルールなどを道徳「がっこうだいすき」(愛校心)「なんといいですか」(礼儀)「みんなのものだもん」(公共心)などと絡めて行うようにする。さらに、学校周辺を歩く前には、警察による交通安全教室を行い、学級でももう一度確認をする。このように国語、図工や道徳、学活との関連も図りながら単元構成を行ってきたい。

4. 児童の実態から(男子17名、女子15名 計32名)

(1) この単元を通して育てたい子どもの姿

- 自分の学校について興味を持ち、楽しく学校生活を送ることができる子ども
- 学校の施設の利用および、学校の生活を支えている人々や友達とのかかわり、安全な登下校などについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現したりする子ども
- 学校の施設、学校生活を支えている人々や友達および通学路の様子などが分かり、それらと自分とのかかわりに気づくことができる子ども

※子どもの思い・願い



(2) 教師の願いと配慮事項

※教師の願い

(生活への関心・意欲・態度)

(活動や体験に付いての思考・判断)

(身近な環境や自分についての気付き)

①これから6年間生活する新宿小学校に早く慣れ親しみ、友達と楽しく学校生活を送ってほしい。身近な公園や通学路、人々や自然に関心をもち、進んでかかわったりする楽しさを味わってほしい。

②学校の施設や身近な公園、通学路について知り、利用の仕方が分かり、楽しく安心して遊びや生活をしてほしい。ルールやマナーを守って安全に利用してほしい。身近な公園や通学路で発見したことを自分なりの表現で伝えてほしい。

③学校生活を支えている人々や、地域の人々や様々な施設、自然、場所とのかかわりをもっていることに気付いてほしい。通学路の様子や安全を守っている施設や人々に気付き、安全な登下校ができるようになってほしい。

※配慮事項

①子ども一人ひとりの興味・関心の方向を大切にしながら進めて行く。そのために、子どもの話をよく聞くとともに、子どもが感じたり見つけたりしたことに対し共感し、思いを受け止めるようにする。
朝の会等で、学校や通学で見つけたお気に入りの発表するなど繰り返し伝え合う活動を取り入れることで、活動に対する興味・関心を深めていけるようにする。
見つけたお気に入りの廊下に掲示し、興味がさらにわくようにする。

②子どもの活動に寄り添いながら、活動中の様々な場面でその子のよさを認め、他で紹介したり、広めたりして自信をもって活動させるようにする。
身振りや手ぶりを加えたりしながら、子どもが話を聞いていて自分も見たい、触ってみたい、嗅いでみたいと思えるよう、五感を生かし、におい、手触り、音など、子どもたちの視点が広がるような働きかけをして、子どもの思いや願いを実現できるような支援をする。

③日常の場面で、学校や通学で見つけたお気に入りの話す機会を設け、自分の身近にすきな場所やもの・人があることに気付けるようにする。
子どもがお気に入りを見つけたときは、カメラやビデオに記録できるようにしておく。
子どもと共に繰り返し通学路を歩いて子どもの目線に立ち、子どもがどんなことに興味があるかを知っておくようにする。子どもに寄り添いながら通学路のおもしろいところを見つけ、知らせるようにする。

(3) 配慮事項に関する実態

○配慮事項①に関連して

- ・自分の学校についての興味・関心および学校での様子 (行動観察・つぶやき)

本学級の子どもたちはたくさんの幼稚園・保育所から入学してきたため、学習経験や生活経験の違いが感じられる。始めは不安や緊張、戸惑う場面が見られたが、入学して2ヶ月が経ち、現在では給食や掃除、係活動などに取り組み始め、徐々に学校生活に順応しているようである。また、友だちやお世話をしてくれる6年生の名前を覚え、業間休みや昼休みに一緒に外で遊ぶことを楽しみにしている。運動会が終わり、学校を支える6年生の頑張る姿を見て、「大きくなったら〇〇お兄さんみたいになりたいな。」「〇〇さん、かっこよかったよ。」と名前を覚え、今まで以上に上級生に親しみを持つようになった。さらに、一つの行事を立派にこなしたことで、自信につながり、クラスでは遅刻や欠席が減ってきた。そこで、学校は楽しいところであるという思いがより高められるよう、子どものよいところを褒めて認め、出来るようになったことをたくさん増やしていきたい。

○配慮事項②に関連して

- ・学校の施設の利用および、学校の生活を支えている人々や友達とのかかわり、安全な登下校などについて (日常観察)

雨の日で業間休みや昼休みに外で遊ぶことができない日には友だちと学校を探検したり、図書室で過ごしたりと教室で遊ぶだけではなく、自分たちで工夫して過ごしており、子どもたちの行動範囲が徐々に広がってきている。そこで探検をする際は、一つ一つ探検する機会を多く設けるようにする。普段施錠してある教室や1年生ではまだ使用しない教室、校庭の隅々でいろいろな発見をすることで、学校の施設の利用および、学校の生活を支えている様々な職員や友だちとのかかわりがもてるようにしたいと考える。活動の際は、子どもの活動に寄り添いながら、活動中の様々な場面でその子のよさを認め、他で紹介したり、広めたりして自信をもって活動させるようにしたい。そして五感を生かし、におい、手触り、音など、子どもたちの視点が広がるような働きかけをしたり、身振りや手ぶりを加え表現したりしながら、子どもが話を聞いていて、自分も見てみたい、聞いてみたい、触ってみたい、嗅いでみたいと思えるよう、子どもの思いや願いを大切にしたいと考える。

○配慮事項③に関連して

- ・学校の施設、学校生活を支えている人々や友達および通学路の様子についての気づき (行動観察)

登校途中に摘んできた花を見せながら、「途中の道で〇〇さんが見つけたよ。」と身近な自然に興味を持って話し始める子どもがいる。また、登校中に見つけた生きものの仕草を真似しながら、楽しそうに伝えてくる子どももいる。通学路は子どもにとって毎日が発見の連続である。そこで、教師も子どもと共に楽しみながら繰り返し通学路を歩くようにする。子どもの目線に立ち、子どもがどんなことに興味があるかを知っておくようにしたい。そして、見つけた発見をその場で共感しながら「もっと見つけたいな」という気持ちを引き出していきたい。

5. 学習の流れ (16時間扱い)

主な活動と内容

がっこうたんけんたい (11)

小単元の評価規準

◎学校の施設、学校生活を支えている人々や友だちに関心を持ち、楽しく学校生活を送ろうとしている。
(関心・意欲・態度)

◎楽しく安心して遊びや生活ができるように工夫するとともに、学校生活の楽しさを身近な人に伝えることができる。
(思考・表現)

◎学校の施設、学校生活を支えている人や友だちが分かる。
(気づき)

○校舎を探検する。(6)

- ・体育館、理科室、音楽室、図工室、家庭科室
図書室、(国語との関連「図書室の使い方」)
- ・探検した場所ごとにお気に入りの場所や物、
人などを一つ決め、カードにかく。
- ・かいたお気に入りのを友だちに紹介する。

○校庭にあるものを話し合う。(1)

○校庭を探検し、見つけたものをカードにかく(3)

○学校探検で見つけたお気に入りのを伝え合う。

(1)

(留意点)

- ・学校探検の趣旨をあらかじめ、打ち合わせなどで伝え、
全職員の協力を呼びかける。
- ・いろいろな発見に共感しながら「また探検したいな」
と子どもがわくわくするような気持ちを引き出して
いく。
- ・子どものお気に入りカードを場所ごとに掲示してお
く。
- ・特別教室を探検した際は、専科の先生とのかかわりの
時間をなるべくもたせる。
- ・五感を生かし、におい、手触り、音など、子どもたち
の視点が広がるような働きかけをする。

ぼくだけ わたしだけのひみつ (5)

小単元の評価規準

◎広場や公園で友達と一緒に楽しく遊ぶとともに、自分たち以外一般の人も利用する公共の施設であること
に気づき、ルールやマナーを守って遊ぶ。(興味・関心・態度)

◎通学路の様子に興味をもち、人、もの、通りの様子、自然など、見つけたことを進んで、絵や文、言葉
で伝えることができる。(思考・表現)

◎安全に気をつけながら公園までの道のりを歩き、人や社会、自然などにふれることを通し、そのよさ
や自分が様々な人に守られていることに気づいている。(気づき)

(留意点)

○朝の会のスピーチ等で学校にくるみちで見つけ
たお気に入りのをみんなに話す。(常時活動)

○通学路で見つけたものを絵や文などで表す。
(国語・図工との関連)

○学校にくる道で見つけたものを伝え合う。(1)

【本時 1/5】

○交通安全教室で道路や横断歩道の歩き方を学習
する。(行事)

○歩くときに気をつけることを話し合う。(1)

○学校の周りを歩く。(2)

○振り返りをする。(1)

- ・事前に予告をし、通学路の様子をよく見ておくよう
声をかけておく。
- ・交通安全に関しては、交通安全教室や道徳との関連
的な指導を行う。
- ・学校周辺を歩く際は、学級担任だけでなく、他の職
員に協力してもらい安全の確保に努める。
- ・通学路のよさを確かめながら、繰り返し子どもとと
もに下校する。
- ・一緒に通学路を歩く際は、子どものお気に入りのをカ
メラやビデオに記録できるようにしておく。

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

○学校にくる道の中での様子に関心をもち、人、もの、通りの様子、自然など発見したことを絵や文、
言葉で伝えようとする。(活動や体験についての思考・表現)

(2) 展開 (12/16)

学習活動と内容	教師の支援と評価の視点
1. 本時の活動やめあてを確認する。 ○「はなしかためいじん」「ききかためいじん」を 声に出して確認する。	○事前に予告をし、通学路の様子をよく見ておくよ うに促す。 ○掲示物を活用し、どんなことに気をつけて発表を したり、聞いたりしたらよいか確認する。

<p>2. 学校にくる道の中で発見したものを友だちに紹介し合う。</p>	<p>○友だちの発表を聞き合う雰囲気を作る。</p>
<p>がっこうにくるみちで 見つけたひみつを つたえあおう。</p>	
<p>話して伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家からみる景色は、とても気持ちいいよ。 ・鳥がパイパイ鳴いているよ。 ・きれいな石を見つけたよ。 ・お花屋さんに、いいにおいの花があったよ。 <p>絵で伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいなピンクの色をしたお花が咲いているよ。 ・子ども 110 番のシールを見つけたよ。 ・カラスがいっぱいいて、いつもえさを食べているよ。 ・ダンゴムシがたくさんいるところを見つけたよ。 <p>粘土で伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信号があって、いつも信号が青になると横断歩道を渡るよ。 ・ふわふわなお花がきれいだったよ。 <p>3. 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の話聞き、自分が見てみたい、触ってみたい、聞いてみたい、嗅いでみたいものを振り返りカードに書く。 <p>4. 次時の活動を確認する。</p>	<p>○子どもたちが発見したものを聞き、共感したり、価値づけたり、例えたり、比べたりする。</p> <p>○子どもの発表だけでは伝わりにくい部分は、質問をして内容を分かりやすく引き出すようにする。</p> <p>○見つけた場所を地図で確認する。</p> <p>○子どもが見つけたものを用意したり、写真を掲示したり、ビデオに撮って見せたり、録音機で聞かせたりする。</p> <p>☆発見したものについて自分なりに表現し、伝えようとしている。 (思考・表現)</p> <p>○自分の気持ちを伝える事が苦手な児童には、自分の気持ちにあったカードを上げるよう声をかける。</p> <p>目・・・見てみたい 鼻・・・嗅いでみたい 耳・・・聞いてみたい 口・・・たべてみたい 手・・・さわってみたい</p> <p>○今日の活動を振り返り、カードを書くことに戸惑いが見られる子どもには、寄り添い、対話をしながら書くようにする。</p> <p>○すべて埋められなくてもよいことを伝える。</p> <p>☆友だちの話に興味を持ち、体験してみたいと思ったか。 (生活への関心・意欲・態度)</p> <p>○次時に通学路を歩くことを伝え、次時の学習に見通しを持って活動できるよう声をかける。</p>